

ませんけれども、特別に3億とか4億、そのくらい、年間の予算の2%ぐらいです。それで自由に予算が、市民が考える機会をつくる、失敗するのは本当は税金でもったいたくないですけども、それも覚悟の上でやる。それは10年後、20年後、こういう市民協働が進んでいくための必要経費だと、そういうつもりで取り組んでいただきたいと思います。市長、今の必要経費だという考えについて、どういうふうに思われますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 必要経費と申されますけれども、これは対馬市の固定資産税等の税源も30億でございます。まして、そういった部分で、補助事業等をそういうふうに各枠配分等のほうに回すということであれば、会計検査等とか、いろんなしがらみも出てまいります。そういうことで、もし回せたとしても、単独の経費ぐらいではないと回すことは難しいのかなと、私自身、今、思っておりますし、これはまだまだ検討・研究を重ねないと、具体的なことは発言できないということで御勘弁願いたいと思います。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 結構です。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時10分からとします。

午前10時52分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 皆さん、改めまして、おはようございます。新政会の春田新一でございます。

さて、コロナ禍で県内外への移動が制限をされておりましたが、ここに来て、久しぶりに移動ができるようになり、観光客も徐々にではありますが増えて明るい兆しが見えてまいりました。本市では、森林が島の面積の89%を占める自然豊かなで人情あふれる島だというふうによく言われております。しかし、現在では、自然は相変わらずよくない方向に変わり続けているような気がいたします。海面は海水温の上昇、動植物の変化も敏感になっているようにあります。漁業は獲れる魚の種類や漁獲高も減少している。また、磯焼けで藻場が減少し、ウニや貝類も漁獲量が減って、水産業に携わる方々の生活は厳しい状況であるというふうには推測をいたします。

島にとって持続可能とは何を意味するのでしょうか。比田勝市長も2期目の4年間、5つの拡大戦略を掲げられて、力強い市政運営に取り組んでおられます。2期目の道半ばではありますが、

本市の将来を見据えた道筋を立てられ、人、産業、地域を結び、自立と循環の宝の島対馬を創るためにも、引き続き、力強い市政運営を期待するところであります。

それでは、通告をしておりました今回3項目の4点についてお伺いをいたします。

まず、市政運営の1点目ですが、持続可能なしまづくり、本市における農林漁業や観光業の人材育成が重要であるというふうに思います。これから先を、将来を見据えた取組について、農業、漁業、その他の産業においても高齢化が進み、併せて後継者不足が深刻であるというふうに思います。

農業においては、農村が持つ多面的機能は貴重な対馬の資源であると考えます。現状に合った人材育成が必要ではないでしょうか。市長の将来に向けての見解もお伺いいたします。

また、漁業においても、海水温の上昇や食害の拡大等、磯焼けが毎年進んでいる状況にあると思います。このことは何名もの議員が質問をされております。磯焼けが毎年進んでいる状況にあると思います。藻場の回復が喫緊の課題であり、漁業就業者の安定確保は、本市の水産業にとって大きな課題であると思います。

農林水産、観光業は、本市にとって魅力ある産業で、所得の拡大につなげなければならないと考えますが、将来に向けて、また、子供、孫に残していくためには、どのような取組をしていったらいいのでしょうか、市長の見解をお伺いいたします。

次に、2点目です。市政運営の中で、本市の将来において新たな産業分野の考え方を伺うわけですが、現在まで人口減少に歯止めがかからない市政運営が続いています。この先、人口減少を食い止めるための新たな産業をつくる方向性、若者の流出や高齢化による労働力不足、また、疲弊する地域経済、危機に対応できる将来に向けた取組についてお尋ねをします。

次、2項目めです。強固な島づくりのための国道整備について。これは、大きな事業になりますのですぐにはいきませんが、一応市長の考え方を伺います。

対馬は、九州の最北端に位置し、北は対馬海峡西水道を挟んで朝鮮半島を望む国境の島で、島の長さは、南北約82キロメートル、東西約18キロメートルで、島の面積は約709キロ平米で中央部の浅茅湾、大小幾つもの入江と島々が複雑な入り込んだリアス式海岸となっています。複雑に入り込んだ地形により、海岸線の延長は911キロメートルとなっています。また上島と下島をつなぐ万関橋、その先には大船越橋、この2か所の橋で対馬の北から南までつながっています。万関橋は、観光客の今ではよりあい処になっています。

近年では、地球温暖化による気候変動の影響により、台風の大型化、集中豪雨など災害のリスクは高まっていると思います。特に、大船越橋は開通から50年が経過しているようにあります。橋梁の点検は実施されていますが、通行できなくなれば寸断も考えられます。通勤、緊急搬送、観光産業等、地域経済が大きなダメージを受けるのではないかと危惧をしているところであります。

す。

このことについて、将来に向けて、観光ルートも含め、壮大な計画の考えはないでしょうか、市長にお尋ねをいたします。

次に、3項目めでございます。このことにつきましては、昨日ですか、入江議員のほうから質問がございましたが、私のほうは方向を変えて質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

移転後の実績と今後の取組についてを伺います。

よりあい処つしまは、福岡を拠点とし、対馬ならではの情報、文化、物、味、雰囲気などを発信し、販路拡大、特産品の販売及び食材の需要の拡大、並びに誘客促進を図る目的で運営をされ、分野ごとにではありますが取組がなされていると思います。

当初は、博多駅前平成25年11月にスタートされ、令和元年まで、アンテナショップよりあい処つしまとして6年間営業されてきました。新たなよりあい処として、令和2年4月に築港本町にリニューアルオープンしています。また、この再出発できたのも、土地から建物においては、対馬出身者の善意ある方の御厚意に預かり、現在に至っていると思います。また、福岡市内外には対馬出身者も多く移住をされていると聞きます。

そのようなことを勘案しますとき、対馬事務所、よりあい処つしまは、あるべき姿かなというふうには思いますが、今までの経過を振り返りながら、新たな福岡事務所としての先の見える今後の運営の在り方についてお尋ねをいたします。

以上、3項目、4点について答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 春田議員の質問にお答えいたします。

初めに、1点目の市政運営についてでございますが、私は、5つの拡大戦略をもって持続可能なしまづくりを目指すとした所信表明を掲げて、市長2期6年目を迎えております。

この拡大戦略の中の1つに、今回の質問にあります、働くを主軸とした産業の拡大に取り組んでまいりました。農林水産業、観光業など全ての産業において共通した課題は、人口減少にまだまだ歯止めがかからないという点でございます。

対馬市長期人口ビジョンの人口推計によりますと、2040年の対馬市の人口は1万6,200人まで減少することが示唆されております。これは、労働世代の減少が進み、明らかに多業種において担い手が不足していく状況となりますので、県と連携し、合同企業面談会などUIターン事業と絡めた雇用の拡大と人口減少対策に取り組んでいるところであります。

農林水産業におきましても、担い手や新規就業者の確保、育成は喫緊の課題と捉えており、農林水産業を担う青年と新規就農者や新規漁業就業者の定着に取り組んでおります。

農業においては、収益力が高いアスパラガス栽培や畜産業を支援する技術研修を行い、規模拡大を図る農家を支援しております。

林業では、地域材供給倍増協議会において、素材生産量を年間約9万立方メートルまで倍増させる目標に向けて取り組んでおり、市といたしましても、生産コストを抑えるため、高性能な林業機械を導入する補助事業などに取り組んでおります。

また、水産業においても、島の魅力を戦略的に発信する観光業と連携し、体験漁業等を通じて、対馬の海の豊かさを認識してもらうために取組を強化しながら、PRにも努めてまいります。

一方、観光分野におきましては、国内外を問わず、観光客が対馬の魅力を存分に楽しんでいただける観光業の育成のため、地域社会維持推進交付金の雇用機会拡充支援事業を活用しながら、既存事業所の育成と新事業の操業支援を継続しつつ、農林水産業等の異業種産業との連携を図ってまいりたいと考えております。

次に、人口減少対策に向けた新たな産業の開拓、取組についてでございますが、非常に難度が高い取組ではございますが、現段階では、2つの産業構築が検討できないかと考えております。

まず1点目は、情報通信ネットワークを整備した中で、IT関連事業やコールセンターなどの産業が生み出せないかと考えております。これまでも、国等に対し、高度情報通信基盤の整備については要望してきたところではありますが、そのような産業、企業を誘致していく中では不可欠であり、高度情報通信基盤の整備を踏まえた中で、新たな産業として呼び込めないかを検討していきたいと考えております。

また、新たな産業ではありませんが、高度情報通信基盤を整備することにより、他地域居住やリモートワークなどの動きにも対応でき、関係人口や移住人口への増へとつなげられると考えております。

高度情報通信基盤の整備につきましては、早期着手に向けて、国等への要望、働きかけを鋭意行いながら取り組んでいきたいと考えております。

次に、2つ目がエネルギー産業であります。これは、自然エネルギーによる地産地消での活用を検討しながら、新たな産業として見出せないかと考えております。その一つが洋上風力発電あります。現在、モデル事業実施に向けて、関係漁民等との協議を行っているところであり、先行利用者である漁民等の理解を得ながら、モデル事業による海洋環境、海洋資源などへの影響、効果等を研究をしていきたいと考えております。

また、対馬市の電気事業を支えていただいている九州電力グループ様との協議、調整も必要になってまいります。将来的な電力需要の考え方や自然エネルギー活用に向けた電力調整などの協議が必要であり、双方並行しながら取り組んでいければというふうに考えております。

ただいま答弁させていただきました2つの事業は、短期的な実施は難しいと考えておりますけ

ども、あらゆる目線で検証、検討を行いながら、将来的な産業づくり、引いては人口減少対策への一助となるよう取り組んでまいりたいと考えております。

次に、強固なしまづくりのための国道の整備についてでございますが、議員御承知のとおり、対馬市の主要幹線道路は、豊玉町浦底地区より以北は、中央を縦断する国道382号、東沿岸を通る主要地方道上対馬豊玉線、また、美津島町雞知地区以南は、東沿岸を国道382号、西沿岸を周回する主要地方道厳原豆殿美津島線がございます。唯一1つの路線で結ばれている区間がリアス式海岸の浅茅湾の端部であります、豊玉町浦底地区から美津島町雞知地区でございます。

思い起こせば、合併以前、旧町の職員と交わり、対馬の道路について語るときに、主に豊玉町や美津島町の職員から、浅茅湾を抜け上と下とを結ぶルートができれば、観光、あるいは防災の面からも利便性がよい道路ができるなどと話した記憶がございます。

しかし、現実問題としましては、対馬の道路事業はまだまだ早期改良を進めていかなければならない区間を多数抱えており、県と市の財政面や費用対効果を考慮しますと、ままたまならないのが現状でございます。

また、対象となる浅茅湾の区間は、壱岐対馬国定公園の対馬地区に指定されていることもあり、新たな開発が妥当であるか議論をすべき区域であることも考えております。

対馬の将来構想として、国のダブルネットワーク構想を念頭に、長期的な展望として議論ができればというふうに思っています。この事業につきましては、平成28年度において、長崎県知事への要望としても掲げておりました。莫大な事業費となりますので、県営事業でも厳しいというふうに回答を頂き、現道の機能強化を努めていくというような回答でございました。

この第2国道につきましては、県と協議を重ね、今後時期を見極めながら、国などへの要望活動を検討してまいりたいというふうに考えております。

次に、アンテナショップよりあい処についてでございますけれども、よりあい処つしまは、昨年の4月に移転いたしました。移転後の実績については、入江議員の質問に答弁した内容と重複いたしますので簡単に申し上げますが、移転直後から、新型コロナウイルス感染症の影響で、この2年間非常に厳しい運営を強いられており、昨年度は、事業持続化給付金や情報発信拠点施設運営継続支援など、各種補助金により、僅かではありますが黒字化しております。

また、今後の取組についてでございますが、福岡を中心とした北部九州地域における対馬の情報発信、PRの拠点となるアンテナショップとして、近隣のコンベンション施設の集客力やメディア露出を利用しながら、福岡事務所と連携して、対馬との関係人口を増やしてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 答弁ありがとうございました。

まず一問一答に入る前に、市長も市政運営の中で道半ばだと思いますが、この5つ掲げられてあります戦略について、もう今6年目に入りました。道半ばではあります、この5つの戦略について、今まで取り組んでこられたことが評価できる点、自分で評価するといったらなんでしょうけど、進んだなど、掲げてよかったなどというところ、そしてまた、これは難しいな、なかなか取り組んでも先進まないというようなところを、一つまず初めにお答えいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私が掲げました5つの拡大戦略についてでございますけども、このことにつきましては、まず第1期目の中でも、ふるさと納税の返礼品を掲げて、対馬の産業を活性化したいということで進めましたけども、少しずつではありますけども、寄附額のほうも増えてまいりました。そして、企業版ふるさと納税の関係でも徐々に増えてきております。

それと、今度、2期目の中で特にどれがいいのかということでもありますけども、まず2期目の場合、まだ2年目ということでありまして、今現在、雇用機会拡充支援事業の活用促進を図りながら進めておりますけども、これについては、一定の効果が出てきているのではないかなというふうに思っております。

それと、浅茅湾関係で和多都美神社を核とした観光開発を図っていこうということですが、この和多都美神社のほうに観光用のトイレができたことで、観光客の皆様から、きれいなトイレを造っていただいたということで感謝をされている状況でございます。

それと、また3点目につきましては、生活環境の拡大のところ、この道路等の整備についてでございますけども、対馬市が今現在抱えている道路整備の中で、特に尾浦浅藻線の道路につきましては、今後、大型の長いトンネル等に着手いたしますので、これまでの社会整備交付金では着手が困難というふうになっておりましたけども、昨年度、国交省のほうに出向きまして対馬の現状をお伝えし、道整備交付金への要望を重ねてきた結果、令和3年度におきまして、新たにこの採択を受けて、事業着手につくことができたというようなことでございます。

その中でもう一件、シルバー人材センターにつきましても、全島に拡大していくということで申し上げておりましたけども、これも、目標の延べ5,000人会にはほぼ近くまでなっているということで、来年度については、法人化に向けて進めていくということでございます。

それと、またこの人づくり、教育の拡大につきましては、対馬グローバル大学が開校できたということで、対馬市の発信や関係人口の拡大に貢献できたのではないかなというふうに思っておりますし、皆様御承知のとおり、昨年度にSDGs未来都市の選定を受けて、漂着ごみを核とした対策などに取り組んでおりますし、まだまだ対馬市を全国にアピールしてまいりたいと思つて

おります。

ただし、一貫して、この中で人口減少問題につきましては、昨日の小島議員のほうから、五島市に比べてちょっと人口減少の差が激しいということで、私も甚だ残念ではありますけども、今後一生懸命に事業等を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） すみません。ありがとうございます。通告はしておりませんが、全体的な市長の考え方を答弁頂きました、ありがとうございます。

4年前に、市民と議会と行政がオール対馬となり豪華なトライを決めてまいりましたということであるんですが、やはりその場合は、国境離島新法が施行された後から、対馬市にも追い風が吹いて運営がスムーズに行ったんじゃないかなというふうに思います。今は、コロナ禍もありまして、非常に厳しいこの経済情勢であります。そこで、向かい風が今吹いているんですが、これを何とか静めるためにどのような施策をしていくのか。いろいろな方法で、島の中ですから、山と海に囲まれた地域ですので、議員の皆さん19名とも農林水産業に関わる質問が多いというふうに思います。なかなか水産、農業について、開拓、改革がなされない状況のまま従事される方は高齢者になり、後継者は育たない、非常に厳しい対馬の中だというふうに思います。

先ほど私が述べましたように、島にとって持続可能とは何でしょうか、何を意味するのでしょうかということなんですけど、なかなかこれが一言で、持続可能なしまをつくりましょうというのであって、なかなか中身がついてこない。そういうことが非常に私は寂しいところなんですけど、これはもう市民の皆さんも理解をしていただいて、これからどうしていくのか、将来、子や孫に向けてどのような施策を組んで取り組んでいくのか、それが大事だろうというふうに思います。

しかし、それを明日、明後日やるんだということじゃなくして、長い目で見て、どのように今基盤をつくっておけば、将来的に子供たちが飯を食える島になれるのか、ここなんです。ここが一番私の質問したいところであって、やはりそのようなことは皆さん考えてあると思うんですけど、なかなかそれが進んでいかないのが現状であります。

先ほど市長も言われましたように、昨日の小島議員の人口減少対策について、五島市の紹介がなされましたけど、そこはそこで、五島と対馬は違いますので、対馬は対馬のやり方で結構なんです。どのようにしたら、市民も一緒になって協力してくれるのか。脇本議員もいつも涙を流して言っていますが、なかなか市民と行政と議会が一緒になれない。ここが残念なところであります。それをどうしようかということで、今は工面をするところですが、なかなかこれは個人一人一人の考え方があります。それを打ち破ることは、私は難しいと思います。

そこでできること、先ほど市長が脇本議員の質問にお答えなされましたが、もう脇本議員も少

し納得はしたようなところもあります。そのような方向性を持って、将来に向けてこの島がどのようになっていくのか、どうしたらいいのかということをやっぴりみんなで考えていかなければならないというふうに思ったところでもあります。

いろいろな角度ですばらしい議員の質問が続いております。市長も大変でしょうけど、これから将来に向けて、この島をこうしようというようなことは、やっぱりトップリーダーとして考えておかなければいけない。また、それを職員にさせていかなければいけない、これが仕事だというふうに思います。教育長もそのとおりだというふうに思っております。

だから、やはり難しいところはいっぱいあるんです。しかし、1人、2人でできる問題じゃありませんので、やはりみんなで力を合わせて、このことはここに聞いたらいいな、この人に頼んでこうしたらいいなど、そういうこともできると思うんです。だから、やっぱり行政だけじゃなくして、いろいろなところでいろいろなことを協議しながら先に進めるというのが、私は大事じゃなかろうかというふうに思っております。

ちょっと後戻りしましたが、水産のほうで、皆さん一生懸命、その地域に合った水産の取組、また、県やら国への要望について毎回されているようにあります。

磯焼け問題の解決は大変厳しい問題でもあります。総合計画前期を振り返りながら、後期の計画策定に当たり、市民の皆さんの声が少し挙がっておりますので、少し紹介できればなというふうに思います。

磯焼けの問題を解決できるように、食害生物の捕獲や利活用、藻場の再生にとって力を入れて取り組んでいただきたい。それから、持続可能な水産業を目指すためには、将来の人口や漁業就業者数の分析、地域の現状や将来の見える化などの取組が必要ではないかというようなことで、この水産のほうには市民からの意見が寄せられております。

そこら辺を先ほども、昨日もそのような答弁は市長もされていると思いますが、私の質問について、一言お願いをいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 水産業等において、やはり、今議員おっしゃられるように、将来の見える化をしていくことは大変重要なことだというふうに、私自身も思っているところでありますけども、私は、常々特に対馬の水産業について思うことは、漁業者個人個人の所得が格段と減少したことが、対馬の漁業の衰退につながったのではないかと思っております。と申しますのも、私たちが四十数年前に役場に入ったときに、たしか初任給等が6万円ぐらいだったんじゃないかなというふうに思っておりますけども、その時期よく言われたのが、何で役場に入るのかと。漁業でイカ釣りに行けば、一晩でそのくらいの分は獲ってくるんだというようなことをよく言われた記憶が今でも残っております。また、そのほかにも、アワビやサザエの水揚げ、ヒジキの水揚



げといったように、まだまだ資源が豊富でありましたので、そういった観点から考えても、やはり所得の裕福さを掲げられて、そのようなことができたんじゃないかなと思っておりますけども、今現在を見ても、なかなか資源が回復をしてこないということで、先ほど議員もおっしゃられたように、磯焼けが進んで、イカこそ昨年から少し釣れてはおりますけども、減少してきたことが大きな要因ではないのかなというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） どうもありがとうございます。

なかなか難しい問題であろうというふうに思いますが、持続可能なしまづくりのために、今後手も抜くことなく、この事業についても進めていただきたい。本当に水産業がなければ、対馬も裸の島になりますので、そこら辺はもう少し力を入れて取り組んでいただきたい。

それと、今度は林業のほうですが、先ほど市長の答弁の中にもありました。大型機械を入れて林業も進めているということですが、森林を利用する方法を組立て、利活用や管理ができるように何かいい方法はないのでしょうかということなんですが、やはり、今、森林伐採、間伐、そういうふうな事業が島内で数多く行われております。これも本来雇用拡充については素晴らしい事業で取り組んであるというふうに思いますし、また、そこでいろんな後継者も育てておりますので、私は素晴らしい事業だというふうに思いますが、これを切りっぱなしであれば、島ですからなくなるわけです。その利活用や管理、後の管理をどうしていくのかということも、今後将来に向けて考えていかなければいけない。市長もいつのときだったか答弁は聞きましたが、今現在、将来に向けて、今、明日やるんじゃないかと、将来に向けてこのようなことを取り組んだら対馬はよくなるんじゃないかという方策を一つお答えをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

今後の森林の在り方でございますが、森林環境譲与税というのが新たにできまして、これまで対馬におられない不在村地主の方、それから、また、島内におりながらも高齢とかそういったことで自分の山の手入れができない方、そういった方たちが、市のほうに管理を委託さえしていただければ、この譲与税を有効に活用して、市のほうで責任を持って管理していくというふうなことを考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） ありがとうございます。

今いろんな国、県も施策を考えて、自伐型林業というものもありますので、そこら辺も対馬にとって大事なことだろうというふうに思いますので、将来に残せる事業として検討し、進めていた

だきたいというふうに思います。

次に、国内観光客のための人気スポットの場所、場所的には、歴史、文化、数々の遺産が残っております対馬ですから、非常にスポットは多くあるわけですが、その場所を集中的に観光客、今は、ほとんど国内観光客のようにあります。増えつつある中、これを逃がす必要もありませんので、増やす方向に向けた取組なんです、そのスポットを集中的に、また島内が周遊できるような取組をやっていかなければならないと思いますが、集中的に扱うところ、例えば、先ほど市長が答弁で言われましたように、豊玉の和多都美、その辺を集中的に整備するというような、集中的に予算をそこに投入してやっていく方向、今現在では、やはり少しずつの予算でやっておられますので、なかなか思うような、本土の人に、いやよかった、いい観光地ですねと言われるようなところは、私は、探せばあるかも分かりませんが探したことはありません。そういうことも視野に入れながら、今後やっぱり取組をしていかなければいけないんじゃないかなと思います、部長でも結構ですが、本当に豊玉が中ですから、まず対馬の中央をきちんと整備する、そして、本土の観光客に喜んでいただける。そういうことを、私はやっていただければなというふうに思うんですが、これも先を見据えた、対馬の将来を見据えた観光ルートというのも視野に入れながら、まず1か所きちんとしたものを整備していただいて喜んでもらって、2回、3回と足を運んでもらう、これが一番大事じゃないかなというふうに思います、考え方をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） また私が足らなかった分は部長に補足してもらいますけども、今、金田城につきましては、やはりNHKの番組で日本最強の城に選定されたということで、観光客のほうが増えつつあるところでもあります。そういう中で、ここは特別史跡に指定をされておりますので、大きな整備はなかなか文化庁の許可が難しいといったようなことで、まずはここに移動式の自動車トイレを配置してから、今度、上るところにVR、そして、AR等の施設を整備しましてから、昔のその城を再現していくといったようなことで、この金田城の集客力の機能強化を進めてまいりたいということで、今現在、事業を進めているところでございます。私のほうから、そこがちょっと今観光面では大きなところでもあります。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 時間がありませんので、時間の計算をちょっとしていませんでした。すみません。

そのようなやはり取組を、トイレについては、これはもうすることが大事ですから、トイレがなければそこに人は動けませんから、人流はありませんから、トイレというのはもう基本ですから、トイレを造りますじゃなくて、造つとかにやいかんわけですから、そこはもうよくよく皆さん御理解はしてあるというふうに思います。

それでは、次、2項目めに移りたいと思います。

今後新たな産業分野を取り込んで、将来を見据えた取組についてお伺いするわけですが、やはり先ほど市長の答弁にもありましたように、ネットワーク、情報基盤整備、これが本当大事だろうというふうに思います。しかしながら、見えないところでやることですから、大きな予算もかかるというふうに思いますが、そういうふうに島ですから、そこはそこできちんと整備していただきたいというふうに思います。

私は、今回この産業については、新たな産業を取り込んでいかなければ、本当に若者がここで育っていかないのではないかと。そしてまた、所得が減って、税収も減るんじゃないか。そのようなことで危惧をして、少しお伺いをするわけですが、これも、本当にこの島にとっては難しい問題であります。なかなか難しい問題をクリアしなければいけない行政も大変かというふうに思うんですが、やはり、我々対馬で、今から先、これから先も生活をしていかなければならない上において、いるように進めていかなければいけないと思います。

これで、先ほど市長のほうから答弁がありました。洋上風力発電について。

世界的にこのような再生可能エネルギーが進んでいくようにあります。我々も、一昨日の代表質問で大浦議員のほうからもありましたが、私も今回は産業建設常任委員会で五島、北九州と2か所の行政視察を行いました。非常に北九州としては大都市でございますので、少しこの対馬とかけ離れた問題だろうというふうに思います。五島については、本当に人口も減少しなくて維持ができて、島全体が潤いを持っているというところは対馬と少し違うのかなという気がいたしました。我々も1日おっただけですのでよく把握はできませんでしたが、この洋上風力発電については、やはり取組がすばらしい。これはぜひ、本当に水産業に携わってやってある方々は非常に厳しい底を、飯を食べているところを箸を取るような感じのところもあるかと思いますが、みんなで考えて、この再生可能エネルギー、洋上風力発電を実施しなければ、私は、対馬は非常に今から先落ち込んでいって、人口も減少するというふうに思います。

このことにつきましては、私がいろいろな説明をする前に、まだまだいろいろな漁業者との取組、また、国の予算、そういうものも勘案しながら、行政のほうで進めていかなければいけないことですから、我々もそれに力を貸せるところがあるなら貸していって一緒にやっていきましょう。そういう考えで私はおります。

この雇用についてもすごいんです。令和2年度は、五島市、洋上風力発電を造るだけで、陸上で造るだけで9社で94名、今現在五島におられて、住まわれて、そこで事業を、工場を組み立てをしたり、そういう事業がなされている。そして、できてしまって経済波及効果は、これは見込みですが、約41億、雇用が360名を雇用してずっと継続して20年間、30年間やっていくんだという事業でございます。本当にすばらしい、対馬では考えられるかな、どうかという

ところはありますが、それに近いところまでみんなで力を合わせやっていきたいというふうに、私は思いました。

以上です。

それと、次は、第2国道の問題ですが、市長も答弁されました。以前、我々がまだまだ青年時代にいろいろな話があったというふうに聞き及んでおりますが、なかなか厳しいのではないかと、いうふうな御意見、また県にも要望されているということでございますが、なかなか莫大な予算がかかるわけですから、これは厳しいのかなというふうに思いますが、やはり船、海上、それから、空、航空、医療、病院、そういったことを勘案すると、美津島、巖原に集中的にそういう場所があるんです。これは致し方ないというふうに、私は考えます。北部の人間ですが、そういうふうに考えます。

しかし、その利便性を同様にということになってやっていくなら、やはり緊急搬送、あるいは医療の問題はやはり道路です。だから、その道路、私はちょっと大船越橋を申し上げましたけど、寸断も考えると言いましたけども、そういうことも考えながら、みんなで力を合わせて、これも大きな事業ですが、先の将来、子や孫に残せる対馬市の道路として、そしてまた、これから先の観光に対馬はいいところだなという観光ルートになればというふうに、私は思っております。だから、浅茅湾とリアス式海岸の質問を質問状で言わせていただきました。

やはりすばらしいところを眺めながら走っていく、これは本当に人間のストレスが解消されるというところも出てくるんじゃないかなというふうに思います。

このことはまたまた後々に少しずつでも先に進むように取り組んでいかれるようなことを考えながら、各団体の皆さんと協議をしながらやっていかなければいけないと思いますので、またそこら辺は少し私も勉強しながら、また折あるときに質問したいと思います。

時間がなくなりました。1分になりました。よりあい処つしま、これについては、リニューアルオープンされて今現在やっておられます。非常に今度は、場所が変わって客層も違ったと思います。そういうとこで、今後も赤字にならないように、みんなで取り組んでやっていただきたい。そしてまた、これはなくすことなく、対馬出身者も多くいらっしゃいます。多くのファンから喜んでもらえるような組織づくりと取組をやっていただきたい。そういうことを祈念し、私もまた視察に行きたいなというふうに思っておりますので、この善意ある対馬出身者の方の厚意を無にすることなく、みんなで取り組んでいきましょう。よろしく願いをしておきます。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、春田新一君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は午後1時からといたします。